



長期留学体験談（中国語圏）

2023年度 輔仁大学（台湾）

H.N.(国際交流学科 2023(R5)年度留学)

私は、留学を経て学習面、生活面のどちらにおいても自信をつけることができたと感じています。使い慣れていない言語を使いながら基本的に自分で全てを行い、生活した経験は今後の人生でも大きな糧になると思います。留学したばかりの時期はあらゆることに対して受け身になってしまうことが多く、中国語で話しかけられても緊張で最低限の返答しかすることができなかつたり、休日も誰かに誘われるがままに出掛けるのみでなかなか自分から行動を起こすことができませんでした。ですが、学習を続ける中で徐々に中国語を話すことが楽しいと感じることができるようになり、徐々に自信が生まれるようになりました。その自信が自分から積極的に話しかけたり、興味のある場所に出かけたりすることに繋がり、見聞を広げることができたと感じています。

今後は、留学で学んだことをゼミ等で活かしながら自身の学習を充実させていきたいです。また、留学を通じて中国語の能力が向上したと感じてはいますが、半年間の留学では不足している部分はまだ多いためより一層中国語の学習に励み、留学での経験を有効活用したいと思います。台湾での生活は不慣れで大変なことももちろんありましたが、周りの暖かいサポートのおかげで常に楽しいと感じ、素晴らしい思い出を沢山作ることができました。学期の間様々な面でサポートを行い、気にかけてくれたバディをはじめとする日本語学科の学生の皆さんや先生方、輔仁大学で出会った友人、留学前からサポートしていただいた国際センターの皆様、私の留学に関わって下さった全ての方々に感謝したいです。本当にありがとうございました。

2023年度 輔仁大学（台湾）

M.M.(国際交流学科 2023(R5)年度留学)

私は留学を通して生活面でも学習面でも積極性と行動力が身についたと思います。私は小学校から聖心に通っており、違う環境に触れる機会がほとんどありませんでした。そのため留学当初は非常に緊張し、不安でいっぱいの日々を過ごしていました。さらに拙い中国語しか話すことができず自分の意思を思うように伝えられなかったことにショックを受け、自分から話しかけることをためらってしまったこともありました。しかしこのままでは留学に来た意味がなくなってしまうと思い、「一日一回は台湾人と中国語で会話をする」という目標をたてました。コンビニや食堂でのお会計や授業で聞き取れなかった内容を同じクラスの台湾人に聞くなどどんな会話でもいいので中国語を毎日使うことで、留学の目的としていた中国語の力が非常に成長したと感じています。

また学習面では台湾の歴史や文化を知ることも目標としていました。そのため台湾と日本の文化を比較する授業や歴史の授業を履修したことで日台の関係性を知ることができたとともに、積極的に台湾の学生と交流したことで互いの歴史に対する率直な意見を聞くこともできました。他国から見た日本の姿を知ることができたことも貴重な経験となったと思います。

生活面では一年という限られた期間で文化や歴史に少しでも多く触れたいと思い、交流や台湾各地への旅行を大切にしていました。台湾は様々な国の植民地になった経験があり、原住民、ヨーロッパ、中国、日本の歴史が相まって今日の台湾が作り上げられています。授業だけでなく実際に歴史を感じる建物を訪れたり、台湾各地を旅行して原住民への学びを深めローカルな生活に触れたりしたことで目標を達成できたと思います。

留学を終えて振り返るとこの一年間は人生で忘れられない、本当に貴重で大切な経験になったと感じています。この一年の経験を無駄にしないよう今後も中国語の学習に励み、台湾と日本の架け橋になりたいと思いました。



2020年度 輔仁大学（台湾）

K.I.(国際交流学科 2020(R2)年度留学)

私は台湾留学を経て、行動力と向上心が身についたと思います。コロナ禍の留学により最初は、自分が思い描いた留学生活とは全くことなる状況で留学生活がスタートしました。課外活動やイベントがコロナウイルスで中止となり、最初はオンラインの授業もあったため、孤独で悲しい時もありました。けれども今の状況を受け止めるだけではなく楽しまなきゃと思い、カフェで友達を作ったり、シェアハウスに引っ越ししたりなど、自ら沢山の行動を起こしました。その結果、普段通りの留学をしていては絶対に出会うことができなかった人に沢山出会うことができました。視野が広がると、思いつかなかったアイデアが出てきたり、様々なことがポジティブに考えられるようになりました。また、そのほかにも自分がやりたいことを明確にしている人と一緒にいるだけで、「私も頑張ろう」と日々の生活において向上心がとても高くなったと実感しています。

留学に行き、台湾という国が自分の第二の故郷のようになったことがとても嬉しいです。滞在した年月は1年と人生で考えるととても短い期間だと思います。しかし、この1年は私が21年間生きてきた中で1番濃い1年で、コロナウイルスが落ち着いたらずぐに飛んで会いたい人が沢山いる場所ができるなんて思ってもいませんでした。

留学を経て、語学はもちろんのこと、人としても大きくなったと思うので、自信をもってこれからも様々な事にチャレンジしていきたいです。



2020年度 輔仁大学（台湾）

S.M.(日本語日本文学科 2020(R2)年度留学)

私にとって、この留学の1年は人生で1番充実していた1年だった。もともと留学は中国語の語学力向上のために決めたものだったが、私はこの留学で語学力よりもっと大切なものを得ることができた。それは、積極的に行動する力、そしてそれによって得た生涯の友達と、国際社会に対する視野の広さである。

正直に言うと、最初、私は留学を少し軽く見ていた。留学に行って現地で生活をすれば、何もなくても自然に中国語が話せるようになると勘違いしていた。だが、実際に留学に行ってみると、ただ生活をするだけでは中国語は一向に伸びないということを痛感した。幸い留学が始まってすぐそれに気づいたので、私はそれから暇さえあれば台湾人と話したり遊びに行ったりするようになった。すると、みるみるうちに中国語が話せるようになって、とても嬉しかった。また、そうして身に着けた積極性のおかげで、台湾人にだけではなく、その他世界各国の友達にも積極的に声をかけられるようになった。この1年で100人以上の、信頼できる心からの友達ができ、一緒に留学を頑張った日本人の友達、いつも中国語を教えてくれた台湾人の友達、母国の文化をたくさん教えてくれた世界各国の友達は、お金では買えないかけがえのない宝物である。特に世界各国の友達ができ、私の価値観を180度変えるきっかけとなった。毎日、新しい発見ばかりだった。台湾にいながらも様々な国籍の人と関わる機会があり、私の国際社会に対する視野は確実に広がった。これは、留学せずに日本にいたら絶対に気づけなかったことである。新型コロナウイルスが流行していた時期でも留学を継続でき、留學生活のなかでたくさんの学びがあったことに、私はとても感謝している。

私の専攻が日本語教育ということもあり、卒業後にまた台湾に戻り日本語教師として働く道を考えている。日本語教師とは、日本語を教えるだけではなく、日本や世界のことについても学生に教える国際的な仕事だと思っている。したがって、私はこの留学で培った視野の広さを今後の将来につなげていきたいと思う。



2020 年度 輔仁大学（台湾）

R.S.(日本語日本文学科 2020(R2)年度留学)

私の留学は最初に大きな決断を迫られました。台湾は感染者が少なくコロナ封じ込めに成功した国と言われていましたが、コロナ禍で外国に残る留学生は少なく、7割の留学生が母国に帰って行きました。周りの留学生がだんだん帰国していく中、地元のご老人に「外国人は、国に帰れ」と初めて人種差別を受けたことで心が折れそうになりました。しかし日本に帰る事を決断してしまうと、この先いつ留学できるか分からない状況だったので、今しかできない経験をしたいという思いから、留学の継続を決意しました。

大学生活が始まると、共同生活、異文化交流で様々な国の文化や価値観に触れることが出来ました。特に、台日文化比較という授業では、台湾と日本の学生同士でグループになって自国の歴史や教育制度、食文化について話し合い、互いの国の認識を新たにすることが出来たので視野を広げる事が出来ました。また新学期には、思い切って台湾の管弦楽社に入部を決めました。当初は、音楽専門用語などの中国語が分からない事が多く心細い思いをしましたが、分からないときは周りの台湾人に教えてもらいフォローしてもらったので、一度も休まず楽しくやりきることが出来ました。最後には管弦楽社の定期演奏会で一緒に演奏して一つのイベントを達成することができたので、積極的に挑戦しに行き行って良かったと思っています。

一年間の留学を振り返ると、日本の事を話す場面が多かった為、自国を客観視するきっかけになり、自分の中にある当たり前の意識が海外に出れば一つの個性であることに気付き自分と向き合う時間になりました。さらに台湾に住んで、外国人の立場を経験できたことで、外国人が最新の情報を手に入れることの難しさを痛感しました。今後は日本に滞在する外国人に情報を早く届ける支援をすることで留学経験を活かしたいと考えています。

今年は、コロナで例年と大幅に異なる留學生生活を送る事になったためイレギュラーなことが沢山起きましたが、厳しい場面を乗り越え発揮できた地力に自信を持てるようになりました。コロナ禍で留学を成し遂げ、困難を乗り越えた経験は私の人生の一翼を担うと思います。

2019 年度 輔仁大学（台湾）

M.K.(国際交流学科 2019(R元)年度留学)

寮は4人部屋で、ルームメイトは私を除く3人が台湾人でした。最初は彼女たちの質問に答えるばかりでしたが、次第にこちらからも積極的に質問するようになりました。ルームメイトとは、ご飯と一緒に食べに行ったり、夜中まで話したりして、とても仲良くなりました。

あまり積極的な性格でない私でしたが、4ヶ月の留学を通じて行ったたくさんのチャレンジと、台湾で言語を学ぼうとしている学生たちの積極的な姿勢から受けた刺激で、言語だけでなく人間的にも成長することができたと思います。この有意義な時間を今後の私の人生で何かに迷った時に思い出してより良い決断ができればと思います。

2019 年度 輔仁大学（台湾）

N.S.(国際交流学科 2019(R 元)年度留学)

積極的に台湾人学生と直接話すことはもちろん、また SNS を使ってコミュニケーションをなるべく中国語で取るように心がけていました。文化は授業や日々の生活を通して触れることができたと思います。また政治についてはちょうど 1 月に台湾総統選挙があり良い時期に留学できたのではないかと思います。学生は皆投票日が近づくほどその話ばかりしていて SNS や実際に学生と話すことで政治に対する若者の考えを知ることができました。現地で生の声を聞くことができたのはとても貴重な経験だったと思います。

2021～2022 年度 文藻外語大学（台湾）

E.K.(英語文化コミュニケーション学科 2021～2022(R3～4)年度留学)

中国語のレベルを TOCFL (B2) まで上げる。台湾中を旅行して台湾に詳しくなる。現地で友達をたくさん作る。留学当初に決めた目標を今改めて振り返ってみると、しっかりとその目標に沿って留学を進められたと感じる。半年以上の長期での留学は今回が初めてだったため、どのようなことが待っているのか不安な部分も多かったが、一度飛び込んでしまえば不安な気持ちを越えるほどの貴重で他に代えがたい経験が待っていた。この留学を通して、以前よりも自分自身が精神的に強く、たくましくなったと感じる。目標や目的を決めて、それらを達成したい、留学で何かを得たいという気持ちをしっかりと持つこと、不安を感じても飛び込んでみることは、これからの人生においても持ち続けていきたい精神だと感じた。

もう一つ留学を通して学んだことは、周りとの支え合いについてだ。留学中は一人ではないと感じることが多かった。現地に住む学生や先生方、他の国からの留学生や親戚など、いつも誰かの支えがあり、留学中の生活や勉強面を支えてくれた。彼らの存在が当たり前にあるということは違うと感じる。私はこの留学経験を通して、自分を支えてくれている人達の存在に気づき、感謝の気持ちを示すことが大事だと学んだ。支えられる側ばかりだったが、これからは自分も支える側として、留学に不安を持つ学生に親身に寄り添ったり、日本にいる外国人の方を助けたりなど、他の人からもらった優しさを次の自分の行動としてつなげていきたいと思う。



2020年度 文藻外語大学（台湾）

M.Y.(英語英文学科 2020(R2)年度留学)

私は2月から6月の半年間留学をしました。私が行った文藻外語大学は、台湾の南部に学校があり、今年初めての交換留学先で、情報も少なく0からのスタートでした。台湾にも行ったことがなかったため、行く前から楽しみにしていました。

私が行く頃は、コロナウイルスが日本で広まり始めた時でした。台湾はコロナウイルス対策が万全で5月から感染している人がいなくなりました。そのため、安心して生活出来ました。同じ大学から、行く子もおらず、日本人も多少はいるのか、台湾の生活とはどういったものなのか、など到着してから日本にいる頃には感じ無かった不安を感じました。しかし、不安に感じた生活も、学校に行くと日本人もいたり、バディの子が助けてくれたりと不安が一瞬にして無くなりました。せっかく留学に行けたのだから、台湾人や外国人と関わろうと思っていました。しかし、学内寮に住んでいなかったため、なかなか知り合いが増えなかったり、お店に行っても英語が伝わらなかったりと四苦八苦しました。少しは日本人と触れる機会があると、心の余裕が生まれました。仲良くなった日本人と台湾人と旅行に2度も行きました。

中国語は聖心の大学で、2年間勉強しただけでした。元から中国語が得意というわけではなかったのですが生活していくうちにもっと知りたい、学びたいと思うようになりました。それは台湾人が留学生にも手厚く歓迎してくれた姿を見て感激したからです。文藻外語大学は外国語を学ぶ大学として有名で、日本語を学んでいる学生も多くいました。留学生のための教室もあり、そこには必ず現地の学生がいるため、わからないことがあれば聞ける場所があったのも良かったです。一人暮らしや外食文化に初めは慣れませんでした。友人が出来て生活にも慣れて、あっという間に時間が過ぎていきました。中国語のクラスは多国籍で、同じクラスではロシア人、韓国人、フランス人、イタリア人、ベルギー人、ドイツ人など留学に来ている外国人も多かったです。英語も学びたかった私にとっては、中国語も英語も使って毎日過ごせたこともあり充実していました。学校の授業もちゃんと内容についていけるかなど心配になりましたが、周りと協力していくことで学ぶことが出来ました。中国語は毎日3時から5時まで行われていたので、中国語を学ぶ時間が沢山ありました。5日のうち先生が2人いるので、進みもゆっくりでした。先生も台湾人で、オール中国語の為、聞き取ることも難しかったですが、聞き取りたいと思えば勉強するモチベーションが上がりました。

この6か月間は、今までにない程内容が濃く、楽しく、辛い経験をしました。辛い悲しい経験も周りに助けられ前に進んでいけることが出来ました。どの思い出も過ぎ去ると、再び繰り返すことのできない経験でした。出会えた友人、環境がとてもよく毎日が本当にあっという間に過ぎました。この経験を通して、台湾の国柄、文化についてだけでなく多文化についても比べながら学びました。この経験から、多国籍文化について考えることが増えました。これらの経験から、日本での生活にも活かしていきたいと思えます。

この留学を経験して、皆さんに伝えたいことがあります。それは第二外国語を選んだ先の大学でも充実した体験が出来るということです。やはり留学というと、アメリカ、カナダ、オーストラリアなどが挙げられます。しかし、アジアへ行っても英語も学ぶこと身をもって実感しました。以上の私の体験が少しでも参考になればと思います。

